



編集発行

公益社団法人

四街道市シルバー人材センター

普及啓発委員会 広報編集グループ

四街道市和良比181-37

電話 043-497-5080

<http://www.sjc.ne.jp/yotsukaidou/>

自主・自立・共働・共助の理念と安全就業



新元号と共に新体制で
次のステージを目指す



令和元年度定時総会

吊看板(題字): 市川 恵子 会員作



暑中お見舞い 申し上げます。

6月総会に於いて、
齊藤前会長から会長を
引継ぎ、その職の重さを
重く、重く感じている所
です。

シルバー人材センターの前任者たちが、地域の期待に応えるべく作り上げてきたルールを基本としてこれまで実施してまいりましたが、昨年は残念ながら安全面では事故が7件発生、お客様から寄せられたご意見が、これまでに無い約50件もありました。このままでは、シルバー人材センターのイメージダウンとなります。一般企業で、これだけのご意見を頂くとする事は、仕事が無くなるという死活問題につながる大問題です。一部の会員の行いで、大多数の会員に迷惑がかかる事になると自覚し、反省していただくと共に、今年は先ずルールを守り地域からの信頼を取り戻し、次の仕事につなげて下さい。そして、安全で明るく楽しい就業の場を目指して行きます。

今、全国シルバー人材センター事業協会では、「生涯現役社会」を実現すべく、意欲ある高年層者に働く場を準備するため、シルバー人材センターの機能強化、求人先とのマッチング機能の強化、働きやすい環境を整備するとしています。シルバー人材センター事業の果たす役割の重要性と地域社会の期待は一層大きなものになるでしょう。

当センターではいち早く、会員募集のパンフレットを作成し実績を挙げております。今後も、会員増強を図りつつ併せて就業の場を提供するための方策に着手しております。

厳しい暑さに向けて、会員の皆様には熱中症が心配される時節となりました。日頃より各自におかれましては、体調管理に留意され万全を期して下さい。これまでは、体力に自信があると思っている方であっても、年々年は取っているのですから過信は禁物です。

今後とも、シルバー人材センターの発展に会員皆様のご協力をお願い申し上げます。

公益社団法人四街道市シルバー人材センター
会長 三浦 誠

「令和」初の総会開催

～ 新会長のもと新たなスタート ～

令和元年度定時総会が、去る6月14日9時30分から南部総合福祉センター(わろうべの里)において、佐渡市長、戸田市議会議長、市福祉サービス部齊藤部長ら同部幹部の方々を来賓に迎え、改元後初めての総会が開催されました。

第1号議案の審議では、平成30年度事業報告がなされ、平成30年度貸借対照表及び計算書類等が原案のとおり承認可決されました。

続いて、第2号議案、第3号議案により、任期満了に伴う役員を選任について審議され、理事11名、監事2名が承認されました。11名の理事のうち5名が新任、監事2名のうち1名が新任となります。

臨時理事会が開催され、齊藤会長と井原常務理事が任期を終え退任されたため、理事の互選により新会長、新副会長、新常務理事が選任され、その旨の報告がされました。

退任された役員の皆様、大変お疲れ様でした。



会 長	三浦 誠	(前列左から3番目)	
副会長	平林 健一	(前列右から3番目)	
常務理事	中嶋 英博	(後列左から1番目)	新任
理 事	鈴木 昌子	(前列左から1番目)	
監 事	日高 正弘	(前列左から2番目)	新任
監 事	宮部 延宏	(前列右から2番目)	
理 事	來住 恵子	(前列右から1番目)	新任
理 事	高久 勝美	(後列左から2番目)	
理 事	川松 勝洋	(後列左から3番目)	
理 事	伊藤 靖士	(後列中央)	新任
理 事	岩崎 雄一	(後列右から3番目)	
理 事	滝澤 和元	(後列右から2番目)	新任
理 事	鈴木 正司	(後列右から1番目)	新任

(以上、敬称省略)

INTERVIEW

会員さんの新しい就業や

チャレンジをしっかりと**応援**します!!

～ 新事務局長中嶋英博さんは
四街道中学の前校長先生 ～



中嶋英博 常務理事兼事務局長

4月から事務局長に就任し、6月に開かれた令和元年度定時総会で理事に就任した中嶋英博さん。

四街道中学の前校長で専門教科が数学と聞いて、

インタビュアーも緊張気味だったが、目の前に登場した中嶋さんはさわやかな語り口で、こちらの元気を引き出してくれるようなオーラが漂っていた。

「シルバー人材センターは、これまでとまるで違う新天地ですが、会員さんや職員さんに私の存在意義を少しでも感じてもらえるように頑張りたいと思っています。」

中嶋さんの自己評価によると、

「工学系が好きで、初めは教師よりも工事士を目指していて関連の免許も取得した。だから教師になったのは人より遅い27歳。」

中学校教師になってからは、佐倉市など印旛郡市で数学を教えた。西中の教頭、北中の校長、そして四中の校長など四街道市での活動は11年に及ぶ。

「私がいつも生徒に言ったのは、異集団との付き合いやアルバイトなどのススメです。つまりは常にチャレンジ精神をもってほしいと願っていました。」

令和元年の新体制がスタートしたわがシルバー人材センターにも、ぜひ新風を吹き込んでもらいたいものだ。

(インタビュアー 野村編集委員)



喜寿のこの歳まで

ずーっと四街道の美味しい空気を

吸って生きてきました

～ 町役場からの永年の市役所勤め、
「四街道市の生き字引」の声も～



自宅の前で奥様と

「私が生まれ育った実家は元禄時代以前からの古い農家でしてね。吉岡の福星寺の隣で、今も古い長屋門が残っていて83歳になる長兄一家が住んでいますよ。」

岡田さんは、昭和50年に妻しづ代さんと所帯を持った大日桜ヶ丘の自宅で、目を輝かせて懐かしそうに話をしてくれた。福星寺とは、美しいだれ桜で知られる、あの真言宗豊山派の名刹である。

実家に残る元禄時代の史料によると、当時では珍しく自作農を許されており、「吉岡村の惣衛門」という家号で通っていたそうだ

「小学1年から4年生まで過ごした吉岡分校は、実家の敷地と福星寺境内の敷地にまたがって建っていました。5年生からは本校の旭小学校まで、毎日5キロほど徒歩で通いましたが、やはり分校時代の日々が特に懐かしいですね。」

中でも忘れられないのが2年生の春の遠足。馬渡分校までの1時間ほどの徒歩行だったが、現地に着くとなぜかすぐに石投げ合戦が始まるのが恒例だった。女の子たちが小さな砂利をかき

集め、男の子がそれを馬渡分校の2年生に向かって投げる。馬渡分校でも同様に男女生徒が協力して向かってくる。石といっても当たってもケガのない程度のもので、総勢80人ほどの男女が懸命に汗を流す姿が、なんとも清々しく思い出されるという。

岡田さんは新製の旭中学校から佐倉第一高等学校(現、県立佐倉高等学校)を経て、当時の四街道町役場に入り、税務部門を皮切りに福祉・年金・保険、都市開発部門など市民生活と関係の深い部門を歴任した。60歳の定年後、わがシルバー人材センターの事務局長を5年務め、平成19年から一般会員として活動している。岡田さんが古い学友たちから「四街道の生き字引」と呼ばれているというのもなすける経歴の持ち主なのである。

「ま、喜寿となったこの歳まで四街道の美味しい空気を吸って生き延びてきたといってもいい。軍隊の演習地で、荒れ放題だった大日桜ヶ丘のこの辺りが、すてきな住宅地として蘇ったのも感慨深いですね。」

岡田さんは手先が器用で、大好きな大工仕事に熱中することがある。自宅の屋根を独力で立派な化粧づくりにしたのも自慢の種だ。

「この歳なのでシルバーの運搬班で運転するのは少し控えています、体の続く限り就業を続けるつもり。大工仕事にもまだまだ精を出しますよ。」

そばに寄り添い、話を聞いていた奥さんのしづ代さんの顔をうかがいながら、岡田さんは元気な声で話を結んだ。

(インタビューー 野村編集委員)



私の趣味

ポタニカルアートの世界

～好きなことを再び～



長谷川 敏夫 会員
(大日小地区 4 班)

花が大好きです。
庭一面に好きな花を咲かせたい！！ 退職後に夢見

ていました。美しい花々を観察しているうちに、この花をキャンバスに描いてみたいという欲が出てきました。絵筆を持つ事は五十数年振りの事です。社会人となった頃は生活に追われ、自分のやりたい事よりも、仕事、仕事の連続の毎日でした。

七十過ぎて退職し年金生活、時間はたっぷりあります。でも、何か緊張感の無い毎日の生活。これでは心と身体に良い訳がありません。

自分が本当に好きな事を再びやる事によって、花は私を目覚めさせてくれました。絵筆を持ってじっくりと花を描く。

集中力と緊張感によってもたらされる満足感！！

「ポタニカルアート」(植物画)の教室に駆け込みました。週に1枚を目標に、自然の美しさと季節の変化を楽しみ、味わいながら過ごしております。その間を縫って、シルバー人材センターの仕事に就業し忙しい、楽しい、健康的な毎日に感謝するこの頃です。



長谷川会員の作品



私のペット 紹介しま〜っす!

私の食生活教えます

～バナナ・ヨーグルト・納豆～



モモちゃん

日高 正弘 会員
(四街道小地区 4 班)

私、フレンチブルドックの女の子、10歳です。ボーイフレンドのピース君は2年前、8歳で天国に旅立ちました。

でも、私はいたって元気です

その秘訣は、ズバリ食生活と散歩だと思っています。私の一日の食生活を教えますね。

朝の散歩前にバナナ一本の10分の1ほどを食べます。残りをご主人が全部食べます。

散歩から帰ると軽いおやつをもらいます。

ご主人と奥様の朝食中に食パンを2、3切れもらった後、少量のドックフードが朝食です。

夕方の散歩中と自宅に帰るとおやつをもらい、足を洗った後にヨーグルトを食べます。

夕食はだいたい6時半頃。

ご主人たちの食事が終わったあと、大好物の納豆を4分の1食べます。

かなりな“粗食”いや“健康食”と思いませんか？ 私、これで十分なんです。

その証拠に散歩のとき、私の歩きは速足でご主人を置き去りにするほどですよ。

編集後記

「令和」が幕開けし、3ヶ月が過ぎました。すっかり馴染んだことと思います。当センターも「令和」第一回の総会を開催し、執行部に新しい仲間を迎え、新時代に船出しました。会員の皆様！ご支援をお願いします。

外務省では「令和」を海外に、「美しい調和」(Beautiful Harmony)と発信しています。

センターの基本理念の「共働」、「共助」を連想したのは、飛躍し過ぎでしょうか？

広げよう！ 「働く喜びと社会参加」

会 員 数

男 性 451名

女 性 146名

合 計 597名



©Netsuno Togeth, 2014

令和元年 6 月末日現在

最高登録会員数 平成24年1月末 672名